



『乳幼児教育保育支援センターだより』では、乳幼児教育保育支援センターの取組や幼児教育・保育に関する情報をお伝えします。



乳幼児教育保育アドバイザーの支援を依頼した園からの声

「幼稚園教育における遊びや生活、幼保小連携及び保護者支援に関する諸課題についてのアドバイス」という内容で、乳幼児教育保育アドバイザーが私立幼稚園に支援を行った際の、園からの報告書の一部を御紹介します。

【園からの報告書より】

初めての依頼で不安でしたが、職員の悩みや疑問について、皆で考える時間を設け、職員同士で意見を出し合いながら、アドバイザーと一緒に解決への糸口を見つけることができました。また、アドバイザーの助言により、これまで園で取り組んできた保育実践の他にも、様々な実践の手法があるということや、状況に応じて柔軟に対応できるような手法について、学ぶことができました。

また、子どもや保育者が活用しているスペースをより効果的に活用することについては、生活動線を考えて環境構成するよう助言していただきました。この助言により、よりよい環境ができるように、職員一人一人が意識して取り組むことにつながりました。

アドバイザーには、日々の保育に関する何気ない疑問についても、具体例を用いて丁寧に答えていただきました。また、協議の場を話しやすい雰囲気にしてもらったので、安心した雰囲気で協議を進めることができました。いただいた助言は、直ちに日々の保育実践に生かしていきたいと思えます。

教えて！アドバイザー ～乳幼児教育保育アドバイザーの知恵袋～

今回、保育者からの質問にお答えいただいたアドバイザーは、防災士としても活躍中の
柳迫 長三 先生 です。

Q：台風や豪雨などによる災害の発生が心配な時期です。各園の安全対策として、この時期、特に気を付けておくことよいことを教えてください。



A：これから台風の襲来期に入ります。

まず、**保護者の緊急連絡先を再確認**しましょう。園からの連絡により、保護者にできるだけ早く迎えに来ていただける体制づくりをすることが大切です。

台風対策として、園庭の遊具は固定し、暴風で飛びそうなものは屋内へ収納して、ガラスのある窓は施錠し、カーテンを閉めておきます。園児を連れて避難する際は、傘は持たせず、カッパとひも付きのスニーカーを身に付けさせることを基本としましょう。長靴で登園している場合、状況に応じて上靴の方が脱げにくく安全であると判断すれば、上靴で避難させる方法もあります。その際、上靴を紐で足に固定させておくことより安心です。

現下のコロナ禍では、3密を避け分散避難が勧められています。**園と保護者で避難場所を確認**し合ったり、園の隣家や町内会役員にも避難場所を伝えておくなど、保護者が自分の子どもの避難場所を把握しやすくなるようにしましょう。

非常持ち出し品については、スマートフォンの充電器や懐中電灯の電池などを再点検するなど、いざという時に慌てないように準備をし、大切な子どもの命を守りましょう。

アドバイザー連絡協議会にて

広島市乳幼児教育保育支援センターでは、「アドバイザー連絡協議会」を定期的を開催し、園等へのよりよい支援について、乳幼児教育保育アドバイザー同士の情報交換や研修を行っています。

8月に開催したアドバイザー連絡協議会では、

「**コロナ禍において考えられる幼児教育・保育の現場への影響などについて**」の意見も交わされましたので、御紹介します。



いろいろな園の行事が中止されていると聞きました。運動会などの行事は、子どもが成長する機会であり、周囲の人に認められる機会でもあります。保護者にとっては、我が子の成長を感じ、育児を見つめ直す機会でもあります。保育者は、子どもの「**育ち**」は**どこで保障するかを考え、このような機会を作っていくことが必要だ**と思います。

「**子どもの何を育てたいか**」、「**だから何を**するか****」等と考えながら保育をしていくことが大切だと思います。そして、職員同士の連携を強化し、「**今できること**」について話し合いを続けていくことが大切な時期です。

園を訪問すると、子どもが、外から帰った時に手洗い・うがいをする習慣が身に付いている様子が分かります。これは、他のウイルスへの対策にもなっており、**子どもが健康を維持するための生活習慣を身に付けることができる機会**につながっています。今後は、子どもたちに、**自分の身は自分で守るための術**について伝えていくことも**大切な保育の要素の一つ**になると思います。

他の園の先生方との**情報交換**も大切ですね。

子どもは、友達と関わる中で心身共に成長するものですが、今は子ども同士の関わりの中での学びが減っています。保育者は、**集団でしか経験できないこと**について、**工夫して行えるように考え**、子どもにとっての**必要な経験**をさせてあげたいものです。

保育の現場では、これまで当たり前に行ってきたことにも、制限をかけなくてはならない場面が増えているようです。**保育者や子どものストレスが軽減されるよう**、一方的に禁止するのではなく、子どもと一緒にルールを考える等、**柔軟に取り組む**とよいと思います。

ある園で、こんなことがあったそうです。0歳児の子どもが、マスクを外した担任の顔を見て泣きました。この子は、日頃から担任が大好きで、これまで安心して関わってきた担任にとっては、思いがけない経験だったそうです。泣いたのは、マスクを外したことで担任の顔が誰か分からなくなったからでしょう。発達の通過点として考えられるエピソードですが、保育者はマスクをしていても、子どもに表情や気持ちを伝えたり、子どもと心を通わせたりすることができるよう、これまでよりも**意識して豊かに表現**することが大切だと思います。

コロナ禍で人との関わりが減少したり、実体験が難しかったりすることが、今の子どもたちの育ちにどう影響するのかすぐには分かりません。保育者は、これまでどおりよりよい保育を目指すだけでなく、これまでと違う状況の中でも、**子どもの育ちを「気にかけてながら」保育を工夫して行う**ということがキーワードになりそうですね。

※ このたよりの御感想や、乳幼児教育保育アドバイザーへの御質問等がありましたら、是非お寄せください。

【発行元】 「広島市乳幼児教育保育支援センター」



〒730-8586

広島市中区国泰寺町一丁目4番21号 広島市教育委員会事務局総務部教育企画課内

E-mail : nyuyouji@city.hiroshima.lg.jp

電話番号 : (082) 504-2833

Fax番号 : (082) 504-2509

【乳幼児教育保育アドバイザー
派遣案内QRコード】